

— アモス7章・12-15、エフェソ1章2-5、マルコによる福音6章7-13 —

十二人は出かけて行って、悔い改めるために宣教した。そして、多くの悪霊を追い出し、油を塗って多くの病人をいやした。
-マルコによる福音6章-

聖霊に遣わされた宣教者

王となった時、信仰深い嘆願が神に嘉せられて、繁栄を極めたソロモンでしたが、晩年は栄華の中を真逆の道に墮した王でした。彼の罪は、かつて主がカナンの地を民に与えるにあたって忠告した「戒め」に背いた罪でした。多くの外国の女を愛してその虜となり、老境に入ったとき、彼女たちは王の心を迷わせ、他の神々に向かわせたので、王はシドンの女神アシュトレト、モアブの神ケモシュ、アンモン人の神ミルコムを伏し拝み、神の道を歩まず、神の目に叶う事を行わず、父ダビデのようには掟と法を守らなかったのです。それで神は、王国を裂いて、家臣であったヤロブアムにイスラエルの10部族を与え、1部族を王の子息レハブアムに残して、王国はエルサレムに神殿を持つ「南ユダ国」と「北イスラエル国」に分裂したのです。

今日の第1朗読は、イスラエル国を興したヤロブアムの悪が及ぼした世界が背景にあって、神が「アモス」を遣わしてその不正を糾弾した箇所です。ヤロブアムの悪とは、彼がイスラエル国を起こした際、エルサレムの神殿に対抗して、二体の「金の子牛」を造り、ベテルとダンに神殿を建ててそれを祀り、エルサレムの神殿に詣でなくても良いようにしたことに始まり、「祭司」もレビ人でない者をたて「預言者」も自分たちに都合の良い、職業的預言者を取り立てるなど、ことごとく神から離れていったことでした。

ここに神は、王たちが抱えた預言者ではなく、ご自身が選んだ一介の農民「アモス」を遣わし、アモスが支配者階級から排斥されるのですが、それは後に宗教のリーダーたちの中に突如としてイエスが登場したあの状況と同じ「教訓」を私たちに投げかけています。

預言者は、かつて、民が、神より王を支持して王の奴隷にならないように王を監視し、その不正を指摘してきましたが、それは実は糾弾のためではなく、救うためのラブコールでした。このラブコールを受け入れないのは、祭司も王も現在の私たちも、心に「聖霊」が不在だからなのです。このことは信仰者にとって実に由々しい問題なのです！

時々、小さな人々の叫びを厄介払いしたり、無視を構えた私は恥じ入るばかりです。

イエスの到来によって、神から遣わされた旧約の預言者は、洗者ヨハネで最後になり、新約は、イエスによって遣わされる洗礼を受けた私たちが、預言者に代わって宣教者とされました。その宣教者は、自分の自己実現のためではなく、ひたすらイエスの福音を人々に伝えるために身を捧げるのであり、準備周到で出かけるのでもなく、報酬も当てにせずただ福音のために心を砕く人なのです。

「豊かさの中で胡坐をかいている宣教者である私に見切りをつけて、聖霊に他を当たらせ、もし小さな人々が今、私の前で叫ぶようなことがあれば、私は直ちに自分を恥じて謙虚に身を正しますように！ 聖霊来てください！」

